

みんなの只見線

身近なところでたびを楽しむ

只見線を利用する機会がない人も、どこかに旅行に行くときに違う町で鉄道に乗ると、旅気分が上がることはありませんか？

私が大学時代に暮らしていたところは歩いて十分のところ、に最寄り駅が四つありました。列車に乗っているのは私のような学生や観光客、地元の人に乗っていました。自転車でも行ける距離でしたが、気分転換で鉄道を利用する日もありました。

日三本しか走っておらず、冬になると列車が運休することもしばしば。天気予報を見て、止まらないだろうか、雪崩が起きないだろうか、なんて考えながら旅程を考えることもよくあります。乗れるかどうか分らないこともありますが、車で移動するのは違って、列車から眺める只見町はいつもとは違う視点を私たちに見せてくれます。

ただ、一日に数本しか来ない列車をどう使うか、考えるくらいなら車で行った方がいいやと思う人も多いでしょう。お子さんが小さいと、荷物も多いし子どもが飽きてしまうこともあるし、足が悪い方にとってはいけない駅もあります。また、二〇二〇年から新型

コロナウイルスが全国的に拡大し、しばしば行動制限が行われ、外出も思うようにできない日が続いています。いつになったら自由に移動して思う存分楽しめる日が来るのだろうか、と皆さんが思っていることでしょうか。

これからしばらくは、遠くに出かける機会よりも近くで楽しめる場所を探してちょっとした旅をする方が増えていくと思います。普段行けない遠くへ国内旅行に出かけるのはもちろんいいですが、日帰りで楽しめる旅も息抜きやリラククスにはおすすめです。

塩沢にある河井継之助記念館は会津塩沢駅から歩いて十分ほどにあります。今年公開された映画「峠―最後のサムライ―」で河井継之助を演じ

た主演の役所広司さんが着ていた陣羽織や松たか子さんが着けたかんざしなどが展示されています。残念ながら只見町では映画撮影が行われませんでした。河井継之助が亡くなった終焉の間が当時のままに移築保存されているのは、本当に貴重なものです。

只見―会津川口は、九月三十日までは代行バスが運行されています。十一年間、不通区間をつないでいてくれた代行バスも乗り納めです。晴れの日も雨の日も、そしてもちろん雪の日も無事故でつないでくれた代行バスは、地元の人にとっては移動の足、そして旅する人にとっても大切な交通路線でした。

旅を辞書で引いてみると、住む土地を離れて他の土地に行くこと、他、古くは必ずしも遠い土地に行くことに限らず、住居を離れることをすべて「たび」といったそうです。

代行バスが走るのもあと一か月足らず。試運転の列車の走る風景を眺めて、只見町をたびする。気軽に小さな「たび」を楽しんでみませんか。

只見線地域コーディネーター

酒井 治子
さかい はるこ



11年間只見線をつないだ代行バス